

## 第394回昭和の森自然観察会

### 水辺が好きな生き物たち

玉川弘幸（千葉市）

日 時：2025年6月8日（日）10時～12時 天候：曇り

参加者：21名（大人11名、子ども10名、指導員7名、他1名）

担当指導員：平田（稚） 玉川

前日、自宅で羽化したナミアゲハを集合場所の東屋に持ち寄り、観察会に早めに来た子どもたちに観てもらい、その手で野に放してもらった。挨拶、諸注意の後、二班に分かれて、湿生植物園を目指した。途中、ハクウンボクがヤマガラの好物の実をたくさんついているのを見る。路肩には地面を覆うようにドクダミが咲いている。ここでドクダミを観察。4枚の白い花びらのように見える苞や、円筒部分の花について説明。参加者からは、お腹が痛いときはドクダミ茶を飲んでいるとの話も聞かされた。湿生植物園入口から見るハナショウブの数は例年に比べて少ないようです。林縁のピンクに色づき始めたムラサキシキブの花を見ると、秋に紫色の小さな実がつくのが待たれます。サンショウウの木の所では、葉を揉んで香りを楽しみました。木道入口のガマを一本根元からカットし、茎や葉の断面を観察して、ハニカム構造を確認した。ガマの上側に付く黄色い雄花穂と下側の緑色の雌花穂を観察。子ども達は、雄花穂を指ではじいて花粉の舞うのを楽しんでいた。菖蒲田の中からキジ独特の鳴き声がしている。畳表に使うイグサは園芸品種のようです。ヨシ原ではヨシを根元からカットし、断面の形状から、ヨシの強さを確認した。木道を出た所のウツギやキブシの枝にぶら下がっている、オトシブミが目につく。穴を開いた葉の表裏には成虫の姿も確認できた。今年の半夏生は7月1日。田んぼ脇の水場の半夏生が花を付け始めました。このころ山形辺りではベニバナが咲き始めるようです。水際までスイレンの花と葉で埋め尽くされている下タ田池では、スイレンとハスの花、葉、根茎の違いを説明。田んぼの脇のテーブルで、ショウブの茎、花、苞の部分の説明をした。ホティアオイは葉の柄の部分を切って水に浸けて指で押さえると中から空気の粒が出てくる。ここが浮袋の役目をしていることがわかつた。子ども達はハスやスイレンの茎を使ったシャボン玉に夢中でした。

参加者の感想：  
・生き物が観られてよかったです。  
・ハスとスイレンの違いがわかつた。  
・シャボン玉が楽しかった。  
・木に名札が付いているのが良かつた。



ハスの茎をストローにして、シャボン玉遊び。楽しいね。



お前は何者だ！